

■ 2024 年度 社会福祉法人なないろ 法人事業報告

1、《事業方針》

障害者の権利を保障し、地域でふつうの暮らしができる地域社会の実現を目指しながら、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されると共に、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する事を目的とする。

2、本年度の展開

1、社会福祉法人なないろの今後 10 年先を見据えた、中・長期計画を作成していく。

→業務執行代理者、総合統括管理者の選任。各事業所管理者を中心とした運営体制の確立。法令順守を基本とした、支援実践に対しての記録作成（個別支援計画等）。一部利用者の加齢化を念頭に置いた支援体制の整備（GH 等）。(受診や寛いだ空間の確保)

2、法人内組織体制を、世代交代と共に支援や組織の見直しを図っていく。

→各事業所の管理者、サービス管理責任者、サービス提供責任者の業務分担をはっきりし、役割や責任の所在の明確化に努めた。事業所が市内に点在しており、情報の共有や管理者等が各事業所に出向く等、顔を合わせての関係性を意識的に推進。

3、利用者さん本人が、生活・活動の主人公になっているか等を改めて問い直していく。

→個別支援目標作成時等、必ず本人と顔を合わせて面談をし、なるべく本人の気持を聞き取り、将来の希望や思いを自分の言葉で話す様に努めた。

4、職員の次世代育成を図る。（育成を踏まえた法人内異動と責任の分担。）

→3~4 年単位で部署異動を原則的に行い、新しい視点や経験を大事にしていく方向を目指しているが、職員の退職等で人員補充が先行してしまっている。初任者研修の受講やサビ管取得研修や積極的な研修受講体制を進めて行きたい。

5、グループホームの 24 時間、365 日開所を目指す。今後とも 1 か月の変形労働制を継続する。

→ほっと・ホットを中心とした運営体制の検討は不十分のまま推移。利用者さんの加齢化や家族の支援力の低下が見られ始めているが、職員人員の補充で手一杯の状態。

6、災害時に対しての災害時物品、食料等の確保とローテーションの準備・充実。

→年度初めに新規防災物品や食料の購入を行った。特に食料については、3 日分の食料を各事業所で保管している。基本的な BCP の作成を各事業所で行ったが、細かな具

体的な詰め作業をおこなう必要がある。

[運営推進状況]について

1、事業運営透明性の担保

年4回のニュースレターの発行や年度末事業報告冊子の発刊を実施。ホームページの内容や写真の刷新を目指したが、部分的な変更にとどまっている。

2、利用者、家族、職員等の合同企画の実施

昨年度は、10月19日（土）13:00～16:30 総合福祉会館5階ホールにて「納涼祭」を開催。利用者、家族、職員合わせ総勢150名が集い楽しむことができた。今年度は「なないろ祭り」と名称変更して実施を計画している。

3、人材確保の深刻さを強く訴え、利用者・職員家族、近隣住民の方に協力を要請し、求人職員応募者を募っていく。

ガイドヘルパーやグループホーム職員の人員確保が深刻となり、各ご父兄に求人協力要請の文章とチラシを配布。ご父兄も積極的に周りの方々に声をかけて頂き、少しずつ人員の確保が進んだ。特にGHのにじいろのパレットは、調理の方が辞められ、一時「ヨシケイ」の給食事業者にお願いしていたが、年度末から再度、グループホーム内での自力調理が復活した。

2024 年度 「相談支援事業所なないろ」 事業報告

はじめに

なないろの相談支援は、2012 年 4 月 1 日にスタートし、13 年が経過しました。現在は、法人内利用者と法人外利用者が約 48 名・43 名の約半々となっています。

令和 6 年 10 月から、基幹相談支援センターと地区別サポートセンター6 か所が中心になって、13 事業所による協働モデルがスタートしました。また、月に 1 回各相談事業所の 70 名余の相談員が集まり、GSV（グループスーパービジョン）を行い、個別課題から地域課題の抽出のための論議を重ねています。また、「行動に課題のある方の支援に係るワーキング」にも参加をしています。今年度末を以て「就労移行」「就労定着」の事業については、今まで実績が無いので、更新のタイミングで廃止としました。

なないろ相談事業所相談担当者の加齢化に伴い、新しい相談支援相談員の就任と共に世代交代が必要な状況となっています。

1、利用者支援

対象利用者： 91 名 男性：64 名 女性：27 名 （11 歳～ 66 歳）

- 1) 指定特定相談支援事業（サービス計画作成）（計画 38 件）（モニタリング 177 件）
- 2) 障害児相談支援（サービス計画作成）（計画 3 件）（モニタリング 2 件）
- 3) ・その他一般相談（来所相談、電話相談）（障害者 延べ 17 名）（障害児延べ 4 名）
- 4) 障害支援区分認定調査委託事業（0 件）（認定調査員不在。昨年 4 月以降からは未実施）

相談種類	障害者			地域移行	地域定着	障害児		
相談内容	計画	モニタリング	一般 (電話含)			計画	モニタリング	一般 (電話含)
令和 6 年 4 月	3 名	12 名	2 名	0	0	1 名	1 名	1 名
令和 6 年 5 月	5 名	16 名	2 名	0	0	1 名	0 名	0 名
令和 6 年 6 月	6 名	18 名	3 名	0	0	0 名	0 名	1 名
令和 6 年 7 月	4 名	8 名	5 名	0	0	1 名	0 名	0 名
令和 6 年 8 月	4 名	18 名	4 名	0	0	0 名	0 名	0 名
令和 6 年 9 月	5 名	15 名	5 名	0	0	0 名	0 名	1 名
令和 6 年 10 月	1 名	16 名	4 名	0	0	0 名	2 名	0 名
令和 6 年 11 月	3 名	18 名	5 名	0	0	0	0 名	1 名
令和 6 年 12 月	6 名	14 名	6 名	0	0	0 名	1 名	0 名
令和 7 年 1 月	3 名	11 名	4 名	0	0	1 名	0 名	1 名
令和 7 年 2 月	8 名	11 名	5 名	0	0	1 名	0 名	0 名

令和 7 年 3 月	6 名	11 名	5 名	0	0	1	0	1 名
合計	38 名	177 名	17 名	0	0	3 名	2 名	4 名
	232 名			0	0	9 名		

支援の方向性（総括）

- ・利用者本人との面談の機会を大事にしていくと共に、行動を共にする機会を大切にしたい。本人の言葉・エピソード、反応の様子を記録していく。
- ・ケース会議については、計 36 回開催。「課題行動についての情報共有」、「後見人受任後の情報交換」、「グループホーム入居前後の連絡調整」、「自宅での粗暴行為についての確認・対応」、「特別支援学校での本人を中心とした関係者の情報共有」、「就労継続 A 型事業所でのトラブル調整」、「施設入所を控えた病院退院前の情報確認」、「インターネットカフェから GH 入所を前提とした、父親を交えての応援情報共有」等の内容。

一般相談

- ・独居で自宅で生活している方が 2 名。1 名はてんかん発作があり鴻てんかん薬を服用。その方が睡眠障害を起こし、ちょっとした時間でも眠ってしまう症状が顕著に表れ、生活に支障が出てきている。後見人と共に東京の睡眠外来の病院を受診。他の 1 名は生活保護利用、金銭管理で預貯金の引き下ろし等支援。
- ・20 年以上自宅からあまり外に出られない方が 2 名。本人やその家族を支える訪問介護や看護、訪問歯科、移動支援事業所の調整。親の支援力が低下してきた時の対応を考えて行く必要がある。
- ・学校・放デイ・家庭等で粗暴行為が継続。学校卒後の進路先選定で難航。進路先各事業所間や学校、家族とのとの協議を調整。
- ・愛着障害の方の通所先が、市の指定管理変更等で受け止め状態が難しくなり、本人もそれらの不安を家で発散する傾向が顕著になってしまった。

サービス計画作成（モニタリング）

- ・3 か月もしくは 6 か月に一度のモニタリングを実施。ライフステージ上のイベントや緊急性がある以外は、定型化して簡易なスタイルで実施検討。

児童相談

- ・障害児の計画相談は、現在 6 名。うち 2 名が高等部 3 年生。本人の特性を受止めてくれる生活介護や就労 B の事業所をあたった。
- ・1 名は医ケア児で特別支援学校高等部 1 年生。一昨年胃ろう形成、昨年は側弯変形が 90° 以上となりボルト固定の手術を行った。今年は比較的落ち着いて過ごせた。
- ・2 名は特別支援学校中等部 2 年生と小学部 5 年生。兄弟だが療育相談センターの相談支

援を受けていたが、セルフプラに移行せざるを得なくなり、受け止める方向で契約を行った。

認定調査委託事業

- ・従来、市からの委託で月 1～2 名ペースにて認定調査を実施していたが、稼働できる認定調査員資格者が不在となり、現在は活動を中止している。

2、事業所運営

職員：常勤兼務職員 1 名。

- ・1 名の常勤兼務職員で相談事業を実施。相談のニーズは高いが担当相談員の加齢化もあり、十分な対応が出来ているとは言い難い。次年度はもう 1 名相談支援専門員を雇用する予定。

会議

- ・担当者会議…緊急ケースやステージ変更時で 36 回開催。
- ・相談事業所 GSV 参加…全体会 2 回を含め計 12 回参加。
- ・実務者運営会議…年 2 回実施参加。
- ・行動に課題のある方の支援に係るワーキング…年 2 回参加。

研修体制

- ・相談支援専門員初任者研修修了者は現在 6 名。5 年毎の現任研修は、相談事業所での実地的な活動が求められるようになった。5 年間で 1 年半以上の相談実績実が必要。
- ・障害支援区分認定調査員研修修了者は 6 名。しかし、実際に訪問調査を行う時間があ職員が不在で実施できていない。
- ・社会福祉士現場実習の県立福祉大学生等の希望者は不在。
(社会福祉士資格取得者の養成や社会福祉士養成実習資格者の確保が必至。)

関係団体との連携

- ・施策検討連絡会への定期的な参加。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【サービス計画作成は、本人を交えての担当者会議開催を心がけます。本人と顔を合わせ、意見や気持ちを汲み取る姿勢を大切にします】

- ・本人を交えての担当者会議は。36 回中 18 回。十分本人の意見を取り込んで会議を推進した割合は少ない。本人が傍に居たり、最初だけ参加した回数も多い。

【業務の他事業所への引継ぎやセルフプランへの移行を視野に入れた支援体制を心がけて行く。】

・相談支援担当者の加齢化を見据えて、上記の推進を考えたが、新規に相談支援を行なう者の参加を得て、世代交代を意識しながら充実した相談支援の実践を心がけて行く方向に転換。

2024 年度【ほっと・ピア】事業報告

・職員体制

2024 年度ほっと・ピアは管理者 1 名、常勤職員 1 名（サービス提供責任者）、パート職員 1 名で年度末を迎えました。年度中、ヘルパーさんの増減ありましたが、ヘルパーの配置においての難しさは変わらないのが現状です。

・ほっと・ピアの移動支援の基本方針について

法人の基本理念でもあるハンデがあっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていくための支援を移動・居宅・家事・通院・余暇を通して必要とされるところにヘルパーの派遣をします。常に基本的には公共交通機関を利用することを念頭に置いて支援を続けていきます。しかしながら現状は、曜日によって支援者の人数が不足してしまい、車両送迎が増え日中活動やグループホームの職員の助けを仰がざるを得ない状況です。

また、朝と帰りに少しでも運動量をプラス出来たらと思う一方で利用者さんの加齢に伴い、安全面を考慮する場面も出てきていますので基本方針に基づきながらも個々に合わせていく支援をできるよう努めます。

・研修体制

10 月 8 日（火）午前・午後に分けてドライバー研修を実施しました。

講師として篠田氏をお迎えし、公道における運転講習を実施。各ドライバーの運転を確認しました。

・事業所運営について

・月 1 回のピア会議については継続して実施しています。

福祉有償運送については安全運転管理者を置き、アルコールチェッカーを導入。日々の安全管理に努めています。

・居宅介護事業も継続して実施。主に、ホット、パレット・奏内での支援にあたっています。

・2025 年度から非常勤職員として 1 名加わります。

・重点目標について

- ・ミスや事故を無くす。
- ・研修体制の確認と再構築。
- ・事務手続きや書類作成の正確性の向上。
- ・報告・連絡・相談の徹底。

2024 年度 「トライ I」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 9名 男性：6名(グループホーム パレット利用3名) 女性：3名 (グループホーム奏利用1名) 年齢 20 歳～ 42 歳

給与及び賞与

基本給：日給 150 円

賞与：夏季 3000 円(内 0 円積立金) 冬季 10000 円 年度末手当 2000 円

今年度も非常時の為に通帳に貯蓄していたものから 40000 円を降ろし冬季賞与とし補填しました。今年度は賞与から旅行積立金は引きませんでした。

※昨年度は夏季賞与からの旅行の積立を実施しました。

前年度実績 夏季(7 月) 10000 円(内 4200 円積立金) 冬季(12 月) 10000 円(内 0 円積立金) 年度末手当 2000 円

※(月別売上報告は別紙)

○毎月の売り上げに大きな変化はありませんでしたが繰越金が少なく、今年度は夏の賞与が減る形になり、冬の賞与では金額に変わりはないものの貯蓄金から補填して支給し年度末手当も昨年と変わらない金額になっています。手づくり品の売り上げが大きく減っていますが、今年度は少しずつ現金化していた寄付された銅線の売り上げが無くなったこともあります。今年度は純粋なクッキーの売り上げによるものとなっているとも言えます。売り上げに対して給料が反映できていないのは材料費の高騰も影響を受けているようです。

○作業・日中活動

○活動の中心としてのワンチャンクッキー作業はとても安定した生産が続けられています。全員での参加を意識し、ひとりひとりが丁寧な作業を心がけており、形の崩れてしまったものはやり直してもらうようにしていますので、ひとつひとつの商品の質が上がっています。受注先からの提案より配達の間隔を短くして賞味期限に余裕を持たせるようにし、柔軟な対応を心がけています。創作活動や自分たちに必要な物の買い出しなど歩く機会、気持ちを变える意味でも外出をする機会を積極的に設けています。

○利用者会議

○利用者会議を不定期ではありますが行っています。カラオケの選曲や調理のメニュー、デザートやゼリーの味などなど身近な興味を持ちやすいであろう事を話し合う場を設けています。○×の札を使ったり、カタログを見ながら選んで貰ったり、言葉の無いメンバーの気持ちを発信する場、伝える場として大切にしています。真意や本当の気持ちを汲み取ることは難しいですが、何かを発信して伝わる事を認識してもらいたいと考えています。

○販売

○今年度も県立福祉大の8月オープンキャンパス、11月海風際、平成町のハウジングプラザ内での販売の機会を頂きました。保護犬や保護猫のイベントですのでワンチャンクッキーは安定した売り上げを保っています。長年お世話になっていた、長沢海岸のカリカというカレー屋さんはオーナーが変わった為、置けなくなりました。販路の拡大は引き続きの課題となります。

・納品先：市役所ともしびショップマリン/ヘルスペット/よこすか犬と猫の病院/ペットサロンプラウド小山/すがやどうぶつ病院/ひごどうぶつ病院/かとうどうぶつ病院

○調理、絵画教室、運動プログラム

・調理実習

○毎週木曜日に調理実習を実施しています。毎週担当の職員が変わりますので職員の個性や趣味も出ながらリクエストにも答えつつ新しいメニューや食べたことのないものを初めてのものを提供し作れるように意識しています。生活の一部であり大切な食べる事、新たなおいしいと思える事の経験と回数が小さな幸せが増やしていけると良いかと思えます。年末にはクリスマス会としてピザを注文したり、毎年頂いているシャンパンで乾杯しています。2月には祝日に余暇プログラムとして米粉ケーキ作りを実施しました。

・運動プログラム

○上町のはまゆう公園でサッカーのグラウンドを借り、トライⅡ、と合同で運動プログラムを実施しました。サッカーをやる経験は殆どなかったみなさんもボールとグラウンドという環境ではゴールに向かってボールを蹴っていました。環境が整うとやるべきことがよくわかっているようでした。

・絵画教室

○毎月の絵画教室では個々どのような形にすれば興味を持って貰えるかなど模索しながら取り組んでいます。個性が興味を持てなかった活動でも自主的に取り組んでくれる時間が長くなり、色彩は豊かになっています。絵画講師：倉田先生 月/1回

○旅行・外部活動

○ふれあい交流会、とうろう夜市、ふれあい運動会、ミカン狩り、新年にはカラオケ大会を実施しました。初めて一緒に行くことが出来た方もおり、楽しんでもらえるか解りませんでしたが予想以上に楽しめたようで何日か余韻が残るくらい楽しめたようでした。3月には八景島シーパラダイスのアクアミュージアムを中心に見学しました。久しぶりの外部活動の為、至らぬ点もありましたが、久しぶりの外部活動を楽しめたと思います。入場料には旅行積立金の一部を使わせてもらっています。

○健康管理

○看護師訪問：岩元看護師 1 回/月。

医療懇談会：中央診療所、春田医師 1 回/年。

健康診断：(まちの診療所つるがおか)は無事受診が出来ています。何度やってみても中々慣れる感じではありませんが戸惑い、拒否をしながらも何とか採血や心電図など苦手な検査を受けてくれています。

○防災

○火災と地震の想定で年に三回(4 月、10 月、3 月)、避難訓練を実施し、1 日、15 日の実施の際には伝言ダイヤルによる法人本部への報告をしています。緊急伝言ダイヤルはご家族の方も確認することが出来るようになっていきます。面談時にご自宅用の個別避難計画の作成のご協力をお願いしております。

○その他

○今年度は実習生の受け入れは法人全体でありませんでした。他に受け入れ先が増えており、障害福祉を取り巻く環境は変化してきているように思えます。トライの定員はいっぱいですが、将来的には利用者の受け入れの体制を含めて事業所送迎なども視野に入れる必要があるようです。

2、事業所運営

職員体制：常勤 2 名 非常勤 2 名 パート 2 名

○職員体制を整える為に年度半ばよりパート職員の募集をしていまいしたが、応募が無く2月から新しい男性パート職員が勤務してもらっています。人材募集の方法を含めて人材の確保は法人全体の課題となっています。職員体制は安定していますが、令和 7 年度の主任は不在となります。

会議

- ・毎週木曜日にトライ 1 での部署会議を実施しています。一週間の予定の確認と振り返りと気づきを職員間で共有出来るようにしています。毎日の振り返りの時間を設け一日の様子を記録しています。Zoom にて一か月に一度の日中活動会議を実施しています。利用者の様子や変化を他部署の職員とも共有出来るようにしています。
- 他部署とも様々な議題において柔軟な体制で会議を開催する体制を整えるようにしています。

○研修体制

- ZOOM による虐待防止研修や中井やまゆり園のとりくみ、農福連携の研修など参加しています。積極的に学ぶ機会を法人として提供が出来るような環境作りに努めます。

○BCP 業務継続計画に伴う策定

- 考えられる被害を現実的に想定して計画を立てています。被災時は安否確認がまず必要になり被災の状況によっては連絡がとれない状況がありえます。個別避難計画に伴い、自宅や、両親以外での緊急連絡先などの情報を提供して頂いています。災害備蓄品も入れ替えや現実的な被害想定をして非常時にしっかり機能をする計画を立てていきます。協力や理解を含めた地域との連携も大きな課題となります。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- クッキーの売り上げは例年通りですが手づくり品の売り上げは減っています。手づくり品の売り上げの安定も目指していきます。作業の内容も大きくは変わっていませんが効率を求めるだけではなく、より作業に集中が出来るような工程で取り組んでもらっています。製品の質は向上しています。納品先に希望で賞味期限に余裕を持たせるために一か月に一度だった配達を二度に増やしました。物価の高騰による利益の減少が感じられました。値上げや内容量の変更も検討しましたが、今年度は値上げをせずに来年度はワンチャンクッキーのパッケージを新しくして販売促進を目指していきます。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

- （1）一人一人があらゆる可能性にチャレンジしながら、製品作りに参加出来る作業内容の工夫と拡大を図って行きます。

- 一緒にいる時間が長くなること、関係性が深くなることで解つてように本人たちの個性を決めてしまう部分が少なからずあるように思えます。個性も変化していくことを念頭に初めてを大

切に挑戦する環境作りを大切にいきます。

(2) 集団の中で認められる事を通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間通しの関係作りを進めます。

○/お互いを必要だと感じる場面は多くはありませんが仲間という意識はあり、まずはお互いがお互いを認め、お互いに自分たちの場所であることを感じてもらえることが大切だと考えます。利用者が中心の場所であり、この場所から地域社会に認めて貰えるような活動を実施していきたいと思います。

(3) お客さんや地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

○/販売先から場所を聞いて直接買いにきてくださるお客様は定期的に変わっていますが一定の人数の決まったお客様が直接、来所して商品を購入して頂いています。商品だけでなく、トライの活動を知ってもらうようになると良いと考えています。

(4) 一人一人の願いに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行いながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

○本人が主体となる活動を通して充実した将来の生活に繋げていく計画を心掛けます。ひとりひとりの願いが何かを察することから始めています日常の中で必要な何かを気付いていけるような視点を大切にしています。個別支援計画ではアセスメント、事前会議に時間をかけて作成しています。

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分達の職場として主体的にその運営に関われる条件作りを積極的に行っていきます。

○活動の中で意思を尊重し自分たちが中心であることを解ってもらえるように自分の気持ちを伝える事の出来る場所、安心して過ごすことの出来る穏やかな毎日を過ごす自分達の場所にしていきます。

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係作りに努めます。

○一方的にモラルや約束のような不確かなルールに捕らわれすぎずに自分たち支援者が利用者とは社会との接点であること、最も身近な他人であることを意識して家族との関係も大切にしていけるようにします。ご家族の安心が本人の安心、穏やかな環境と直結していますので些細なことも相談して頂けるようになると良いと考えます。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である使用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りの為に必要な行動を一緒に取り組んでいきます。

○障害福祉の制度の変化は常にありますので変化を意識し日常を過ごす社会の中での活動を中心として自分たちの場所をつくっていきます。ご家庭の希望に沿った面談を設定し

計画の説明と避難計画の作成に当てるご協力をお願いしています。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援（実践報告書用）

大好きな漫画に「言葉は人類が生み出した最高のツール(道具)だ」という台詞があり、至極共感します。言葉の可能性の大きさを実感する故に言葉以外の方法で何かを伝えるのは難しく、伝える方法も限られていると感じています。視覚や聴覚に訴えたり、日常的な訴えは身振り手振りでこちらの意志を伝えることになります。伝わる、伝わらないは相手側の意識の状態も大きく作用します。意識が違う方向へ向いていれば何をしても伝わるものも伝わりません。伝える事柄に足してこちらの気持ち、感情を伝えることも大切だと思っています。一方的な感情やモラル、ルールの押し付けにならないようにしなければなりません。自己決定をしてもらう際の答えは本人がそう言ったから本人の意思であるとは限らないことも多く、言葉だけでも自己決定に結び付きません。多くの人が穏やかに過ごすことを望んでおり、目標としています。問題行動に繋がると言われる刺激を与えない事に捕らわれて本質的な自己決定への支援や豊かな生活の為の活動がないがしろにならないようにしなければなりません。他人という社会と隔離された世界での安定や穏やかさは豊かな生活という意味では実の部分が少ないように思えます。本人の意志により、「やりたくない」という意思表示もただ受け止めるだけでなく、見極めて経験する機会が減らさないように注意が必要なのだと思います。やりたくないことも含めた自分自身の経験が、選択肢を増やしていくことになり、本当の意志、自己決定に近づいていくよう思えます。穏やかな生活を望むばかりで本人の為と利用者を守るためと問題に向き合わず遠ざけてしまうことのないように努めなければなりません。将来に向けて問題を問題で無くすための支援者の行動や説明が社会と隔離された壁をなくす為に必要になるようです。

2024 年度 「トライⅡ」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 11 名

男性：7 名(グループホーム利用者 5 名)

女性：4 名(グループホーム利用者 2 名)

年齢：26 歳～65 歳

給与及び賞与

基本給：150 円／日

手当：所属年数による手当で：1 年目 0 円 2 年目 10 円／日 3 年目 20 円／日

4 年目 30 円／日 5 年目 40 円／日 6 年目以降 50 円／(上限)

賞与：夏季（7 月）：5000 円 冬季（12 月）：10000 円 春季：10000 円

前年度(2023 年度)実績 夏季 5000 円 冬季 5000 円 春季 5000 円

作業・日中活動

・クッキー作り・配達・クレープ生地ベースの受注生産

買物・シール貼り・外販売(トライⅡ前)・調理実習

絵画教室など

・プリント（クッキーのパッケージのシール貼りや字の練習・計算など）

・クリスマス会・忘年会・日帰り外出(小グループに分かれて、湘南方面、逗子方面、など)

・近隣にあるアートセンター、たこ焼きエイトを利用して地域との交流の機会を作りました。

販売

・店頭売り・ともしびショップ（市役所・県立大学内）・ジャカランダカフェ(歯科大学内の喫茶店)・長沢ベーカリー店頭・ほっとピア・ Keepsmile Yokosuka (ハウジングプラザにて 4 月と 11 月にそれぞれ 2 日間イベント販売)・グループホームもえぎ・大津行政センターオープンデーなど

調理、エアロビ、絵画教室

・調理：調理代¥350（毎月の実施回数を調整しながら月に 1 階程度実施。

手打ちうどん、ピザ作り、グラタン、サンドイッチ、カレーライスなど

・絵画教室：講師（倉田氏）講師料¥4000(月 1 回実施)

個別の特性に合わせたテーマで、絵の具や色鉛筆などで描きました。

きょうされんのグッズデザインコンクールで入賞した作品もありました。

旅行・外部活動

- ・文化会館絵画展の観覧
- ・みかん狩り(11月、希望者で参加)
- ・忘年会(今年はピザを注文してみんなで食べました)
- ・3グループに分かれての日帰り旅行(小グループに分かれて、湘南方面、逗子方面、など)

健康管理

- ・看護師訪問：1回／月 岩元看護師
血圧・体温・体重・脈拍計測・様子の観察、助言、相談
- ・健康診断：6月28日(まちの診療つるがおかにて身長、体重、血圧など、心電図、胸部レントゲンなど)
- ・医療懇談会：1回／年 春田医師（中央診療所）・法人各部署

防災

- ・避難訓練3回／年（4月、10月、3月）
火災や震災を想定して実施。震災時の避難先は文化会館。
「171」の緊急伝言ダイヤルの試用を実施。避難時に着用するヘルメットに事業所の連絡先やヘルプマークを付けました。

その他

- ・赤い羽根共同募金も事業所での実施という形で参加させて頂きました。少額ではありますが12月末に社協担当者へ募金を収めています。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤2名
- ・非常勤2名（内1名は月と木にトライⅡに勤務）
パート職員名3名（月・火・金1名、火・水・木1名、水1名）

会議

- ・振り返るだけでなく、最大30分～40分程度で、日々の懸案事項について（利用者さんの様子から、作業内容、翌日の予定など）話し、支援に対しての共通認識や困難に感じていること、支援の方針などを話合いました。
それをメモしながら、参加出来なかった職員にも共有しています。

研修体制

- ・相談支援専門員現任研修(8月、9月 齊藤)

関係団体との連携

- ・横須賀の福祉を推める会
- ・下町作業所
- ・作業所連絡会
- ・きょうされん
- ・ショートステイ事業所(ピースカラー)
- ・移動支援事業所(横須賀ヘルパーステーション、湘南クリエイティブ、ピースケア、アシストワン、ほっとピア)
- ・生活介護事業所ゆずりは(利用者1名兼用利用)
- ・生活介護事業所けいしんデイサービス(利用者1名体験利用付き添い)
- ・グループホーム郷
- ・グループホームあゆみの家(ポニー)

3、製菓・製品製造 課題と総括

□クッキー(ハロウィンやクリスマスの限定クッキーを製作)

- ・売り上げには前年度と比較すると増えており、前年度以上の賞与も出すことができました。売上金を使って製品作りに使う道具(シーラー、クッキーの型、オーブンシートなど)を新しくしたり、数を増やしたりすることができ、製造効率を上げることができました。
- ・利用者さんが主体的に作業を行うことをテーマにしながら、そのために必要な補助や事前準備なども工夫しながら支援しました。具体的には生地作りの日と成型の日を分けることで準備を一日に集中させ職員の準備の負担を減らし、支援に向けられる時間を作るようにしました。今までは生地を冷凍していなかった種類のクッキーも、業務用の冷凍庫であれば品質を保ちつつ保存できることも確認しながら、新しいやり方を導入してきました。
また、販売方法も工夫しセット販売や季節商品を作り単価を上げたことも売り上げの上昇に影響したと考えています。
- ・豊島小学校や、三和保育園、横須賀学院など近隣の施設からも注文があり、販売経路がより広がっている様に感じられます。その他にも、上町のカフェバー(圏外書房)にクッキーを置いていただくことも始めました。

4、今年度重点目標の(運営方針) 課題と総括

トライ〈Ⅰ・Ⅱ〉運営方針（重要事項説明より）についての総括

- （１）健康に過ごせることや見通しのつかない状況の中で、利用者さんが少しでも安心や楽しいと感じられたり、やりがいを感じられる事業運営を心掛けたいです。

通常は室内での活動が主体ではありますが、製品作り以外の時間も意識的に作り、季節を感じられるよう気候が良いときに屋外へ散歩などに出られる機会を少しずつ増やせたのではないかと思います。

- （２）集団の中で認められることを通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間同士の関係作りを進めます。

１階から３階までのスペースを使い、仲間同士で過ごす時間や個別の空間や時間を必要な時に提供できるように支援しました。仲間同士でも活動の予定を確認したり伝達しあったりする場面もあり、職員を介さないコミュニケーションが増えてきていることにも注目しています。それぞれの特性に配慮しながら、個別のペース、集団での流れをを考えながら適切な距離感を探りながら対応をしています。

- （３）お客さんや地域の人々との関わりを通して、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

ご来店いただくお客様が増えてきているお陰で、お礼を言ったり買ってもらっている場面を見られる機会が増えていると感じられます。

福祉関連以外の団体とは、上町商店街のアートセンターに見学に行ったり画家さんに絵のリクエストをしたりして今までにはなかった関わりができました。他にも同じ上町のカフェバーに製品を置いていただき納品を通してお店の雰囲気を味わう機会をいただきました。ハウジングプラザ横須賀で年２回（４月、２日間と１１月、２日間）開催される犬猫の譲渡会でトライⅠ・Ⅱの製品を売りました。

他には、初声のグループホームもえぎでの販売に利用者さん２名と参加しました。事前から販売対応の練習をして意気込んでいる姿もあり、普段にはないやりがいを感じる機会になったと思います。

引き続き、横須賀中央駅前にあるクレープ屋さんから生地ベース作りの仕事を頂いており、いただいたサービス券でクレープを食べに行ったりして、自分たちがやっている仕事と地域のつながりを感じられる機会をいただきました。

- （４）一人一人のねがいに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行いながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

日常的には個人の特性に合った仕事内容を導入し、得意なことを活かせるよう

クッキー作りの中でも役割を分担しています。例えば、数えるのが得意、細かい作業が得意、力を使った作業が得意、仲間の手助けをする事が得意、同じことを繰り返すことが得意、得意なことに注目し職員のフォローも含めてお互いに補い合いながらクッキーの製造作業が成立するようにミーティングでも支援内容を話し合いながら工夫して支援しました。

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分たちの職場として主体的にその運営に関われる条件づくりを積極的に行っていきます。

一人一人とのやり取りの中で言葉や行動などを見極め意思を汲み取りながら、活動内容や必要な対応やフォローを考えています。場面に寄ってはご本人の意思には添い難い状況もあります。しかしながら、そのような状況を察して利用者さんが一生懸命に受け入れて行動されている部分もあります。柔軟に融通を利かせられることも少しずつ経験として積み重ねられたらと思います。

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえ関係づくりに努めます。

年 2 回の面談などの機会に、支援の状況を説明させて頂いたりご家庭での様子を伺ったりさせて頂きました。トライⅡでの様子を観察している中で支援者の視点が部分的なものでしかない場合もあることに気づかされたり、ご家庭や移動支援中のことを踏まえながら支援する連携の難しさも感じられるところです。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である利用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りのために必要な行動をいっしょに取り組んでいきます。

この度はBCPによる調査の機会から福祉避難所についての情報が不足している事と、事業所としてそれを確認することを通して、災害時の対策が現状はどれほどの位置にあるのかを考えさせられました。

災害が起きた時に、日中活動の場にいるのか、グループホームにいるのか、自宅にいるのかにより避難所へのアプローチが異なり、支援者としての立場も役割も異なります。加えて福祉避難所に対しての情報や理解が不足しているという現状にも気が付かされました。

2024 年度 「長沢ベーカリー」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 17 名

男性：10 名 女性：7 名

作業・日中活動

・パン製造・販売については 1 年間を通して安定した集客、売り上げをあげることができているが、7～9 月に関しては猛暑の影響で売上（来客）が落ちるのと、物価高が続いており、材料費の高騰が課題となっている。

・前年度に続いて 9 月に日帰り旅行を実施。鎌倉（大仏、鶴岡八幡宮、江の島水族館）へバスハイクに出かける。天候にも恵まれ、それぞれ楽しむことができた。その他にも新年会、みかん狩り、運動会、法人主催の納涼イベントなども実施。

販売

・店舗販売に加え外部販売も 1 年を通して安定的に売り上げることができている。予約注文の連絡をいただいたり、イートインで食べる方が増えたりと、常連のお客様が増えたことが安定にも繋がっている。

・主な外部販売

岩戸支援学校、武山支援学校、市立支援学校、ケアホーム三浦（高齢者施設）、スマートストア（通信研究所内コンビニ）、北下浦コミュニティセンター、横須賀の福祉を推める会、サンカフェ広場など。

旅行・外部活動

・鎌倉旅行については観光客も多かった中で、みんな落ち着いて過ごすことができていた。神社などを巡るスケジュールで時間を潰せずに不安定になるメンバーも予想されたので、駐車場に福祉バスを待機してもらいクールダウン場所として考えていたが、実際は使用することなく過ごすことができた。

・昨年度に続き、みかん狩り、ふれあい運動会などに参加。

健康管理

・コロナなどの感染症が広まることなく過ごすことができている。家族やグループホームの

入居者などが罹患（またはその可能性がある）した場合、基本は2～3日ご自宅で様子をみてもらうが、家族で受け止めることが難しいなどのケースがあり、事業所としての判断が難しい場面があった。

- ・健康診断など大きな病気はなかったが、全体的に体重が増加傾向であり、今後の生活習慣病などが心配な部分。活動でもウォーキングを行ったりと適度な運動は実施しており、ご家庭とも相談をして食生活も見直していきたい。

防災

- ・今年度も年に3回の防災訓練を実施。新しいスタッフも増えたこともあり、再度事業所の災害時マニュアルを伝え、訓練にも参加してもらった。外出時の避難ルートに関しても色々な想定をして訓練を実施。職員間で話し合いながら様々なケースに対応できるよう準備をしている。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤4名、パート職員9名。
- ・パート職員が2名加わったことで職員配置など柔軟に対応ができるようになった。作業よりも支援を中心にした考え方で、1ヶ月のうちに数回はパン作り（店舗）をお休みとし、外出などのリフレッシュできる活動を取り入れている。

会議

- ・毎日の振り返りミーティングを継続、支援のことを中心に話し合いを行っている。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- ・現在は1日に100～150個程度のパンを製造している。売り上げは安定しているが、物価高騰などの影響もあり、利用者への工賃（賞与含む）は昨年と同額程度となっている。
- ・また店舗の開店についても月に1～2回は休みの日を設けている。パンの注文や売上と比例するように職員の負担が大きくなり、支援についても細かな部分まで目が届きにくくなってしまった。作業が休みの日はメンバーのみんなにとってもリフレッシュできる期間となっており、外出したり、室内で好きな活動などをして過ごしている。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【利用者支援】

・4月に女性メンバーが1名入所をし17名（定員20名）となる。新しいメンバー、それを受け入れるみんなも戸惑うことなく1年間過ごすことができた。例年であれば前期、後期と支援学校から多くの実習生が来るが、2024年度は前期に2年生1名のみ。入所希望についても久しぶりに無しという事となった。横須賀市内にも通所施設は増えており、ニーズなども変化してきている。定員を埋める為には実習の受け入れ以外にも工夫が必要になってくる。

・利用者支援はもちろんのこと、本人を支えるご家族が病気になってしまったり、経済状況的に色々なサポートが必要であったり、生活習慣が変化をし思うように通えなくなったりと様々な家族支援を行ってきた。面談においても少し踏み込んだ話題にも触れ、将来の暮らしの希望についても本人、ご家族と確認をした。やはりグループホームの希望が多くあり、その前段階として短期入所を希望されるご家庭が目立った。しかしながらあるご家庭では申し込みから2年経過しているが利用が進まず、その間に母親や兄弟が疲弊しているといった状態であり、受け皿の少なさにより、問題解決に至らない現状がある。

【店舗運営】

・今年度もサンリヴ商店街に加盟をし、様々な取り組みに協力をしてきたが、イベント（商店会のお祭り、マラソン大会など）は土日が中心の為、事業所の開所とは重ならず、参加することは難しかった。

・近隣施設である社会福祉法人クオレさんから声をかけていただき、地域交流イベントに参加させてもらう。パンの販売が中心だったが、模擬店のチケットもいただき、みんなで参加。良い交流の機会をいただけた。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援

・面談の際には本人からも聞き取りをし、やってみたいこと、得意なこと、苦手なことなどを聞かせてもらった。将来の生活の希望についても伺ってみたが、まだ現実味はなく、具体的な話にはならなかった。現在は5名のメンバーが短期入所を利用しており、日中の会話の中にも宿泊施設の名前が出てくるので、近い存在として捉えてくれている。

2024 年度 ほっと・ホット 事業報告

はじめに

昨年度途中で職員体制が変わり、ご利用者の皆様始め、ご家族の皆様にもご不安な思いや、ご迷惑をおかけしたことを、大変申し訳なく思っております。
スタッフ一同協力して日々の支援に取り組んでいきたいと思っております。

利用者支援

利用者：男性 4 名 女性：2 名（45 歳～52 歳）

過ごし方

生活スタイルに大きな変化はありませんが、平日は帰宅後早めに入浴をして、その後ゆっくり過ごし頂く流れが定着しています。休日など思うような外出ができていないかもしれませんが、近くのコンビニなどで昼食を買いに散歩をしたり、ドライブをするなどしています。

健康管理

大きく体調を崩される利用者さんはいませんでした。それぞれ通院の機会は増えており、グループホームの職員が同行して対応をしています。また車椅子の利用者さんに関しては、訪問マッサージのサービスを週に 1 回ホーム内で利用しています。昨今は寒暖差も激しく、体調を崩しがちな傾向も見られます。また、加齢にともなう体調の変化にも気付けるよう心掛けていきます。

防災

防災訓練を年に 3 回実施しています。地震などのニュースでも不安を感じる利用者さんもあるので、備蓄品なども含め、様々な対応を検討しないといけないと考えています。

将来に向けた取り組み

週末の開所は月に 2～3 回となっており宿泊の利用者は 3～4 名程度となっています。金曜日も含めてグループホームに宿泊するメンバーが増えており、それぞれ良い表情で過ごされています。365 日の開所に向けてスタッフの育成・確保は急務になってきています。

旅行・イベント・余暇活動など

祝日などの対応は職員とドライブに出かけたり、近くを散歩したりと、ごく小範囲での活動となっています。ヘルパーさんやご家族と行きたい場所へ出かけ、気持ちをリフレッシュする時間を作ってもらっています。

事業所運営

職員

常勤 2 名・ 支援員パート 13 名（うち学生 4 名、調理員 2 名）

会議

月に 1 回ほっとホットスタッフ会議を実施。

（スタッフ会議に参加できなかった方にも会議録を見てもらい情報を共有）

研修体制

- ・虐待防止研修/年 1 回以上
- ・身体拘束適正化研修/年 1 回以上
- ・居宅介護従事者研修
- ・その他随時

夜間を含む人員体制

県立保健福祉大学から 4 名の学生が宿直アルバイトとして加わっていますが、実習により休みも多くなります。長年支えて下さっているパート職員が徐々に定年を迎え、また定年間近となっていることや、週末や朝に対応できるスタッフが少ないことなど、人材の育成と確保が現状の課題です。

地域生活

・大津ボランティアセンターの皆さんに支えていただき、毎日たくさんの洗濯たたみを行って頂いております。

今後の課題↓

- ・地域連携推進会議の実施。年 1 回以上。
- ・共同生活住居への訪問受け入れの実施。

今年度重点目標（運営方針）課題と総括

- ・「いつも通りの暮らしを支える」→1年間、概ね皆さん健康、安全に過ごせたのではないで
しょうか。
- ・「スタッフの定着」→来年度も引き続き目標となります。

来年度重点目標課題↓

- 1・利用者さんの健康と安全への取り組み。
 - ☐気候の変化や、感染症、加齢に伴う体調の変化に敏感に対応する。
 - ☐日々の安全はもとより、緊急時や災害時の対応について確認する。
- 2・きめ細やかな支援のための情報共有
 - ☐日々の細かな情報をスタッフ間で共有し、きめ細かい支援の実施を目指す。
- 3・地域連携推進会議の実施。（令和7年度より義務化）
 - ☐地域との連携を築いていく。
- 4・スタッフの定着

自己決定に基づく将来に向けての支援

- ・個々の特性を理解し、各々の過ごし方を大切にすることに向けて、取り組みを継続するこ
とが出来たのではないでしようか。

来年度課題↓

- ・自己決定をするための「‘意思決定’を支援する」ところから再度学びを深めていく。

2024 年度 にじいろのパレット 事業報告

はじめに

2024 年度は、以前のような日常が戻ってきました。

グループホームで当たり前の生活があたり前のように過ごせることが本当にありがたく心から感謝しました。変わりなく過ごせる毎日の中で、自分の時間を楽しめることが増えたようにも思います。グループホームがご自身の居場所であり、くつろぎの空間であってほしいと願います。

利用者さん、ご家族、スタッフ共に健康で穏やかに過ごすことが出来た 1 年であったと感じます。

1、利用者支援

利用者： 男性：4 名 29 歳～41 歳

過ごし方

居室で過ごすメンバーが多い中、スタッフと一緒に TV を見たり、一日の出来事などをリビングで会話を楽しむことも多くなってきました。会話の中から、コミュニケーションが生まれるのでスタッフも楽しみにしています。移動してきた職員にも良い表情を見せるなどグループホームでの暮らしを続けた中で色々と成長した部分もあるのではないかと思います。

健康管理

体の源であり、生きていく上での活力である食事については調理員をはじめスタッフと MTG を持っています。管理栄養士の献立の元、組み立てていますが、人材不足がいとめす毎週金曜日の夕飯は「ヨシケイ」から食事の提供を受けています。量については、少々足りないようですが、スタッフが野菜やスープ、タンパク質を考え 1 品増やして対応しています。年齢を重ねるにつれ生活習慣病の予防・改善も考えていく必要性もあります。

2025 年 3 月中旬には、2 名の調理員（ご近所の方）の方を採用しました。

研修体制

常勤職員の体調不良もあり、外部との会議の中での意見交換にとどまっています。

夜間を含む人員体制

長年勤務してくださっているパート職員さん中心に行っています。

安心と信頼が有り、とっさの判断にも大変心強いものがあります。

法人内のグループホームが1つになり行ってこれたのも大きな事であると思います。

地域生活

BSP 体制も鑑みながら、地域連携推進会議の開催もありますので、地域との交流を実践していきます。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

利用者さんが自分らしく、落ち着いて過ごせるグループホームであるためには、まず、環境状況の整備、スタッフの心精神の安定、健康を心掛けました。

利用者さんの笑顔や、スタッフになんでも話せる環境であることに安堵しています。それぞれの楽しみ方や、スタッフとメンバー間の信頼関係も保てる空間であるように引き続き支援していきます。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

大きな事故もなく、日々の宿泊に関しては4名全てのメンバーが落ち着いて過ごせています。ご家庭の希望としては土日含めた365日の開所がありますが、メンバーの皆さんにとってはまだまだご実家とホームをバランス良く利用したい思いがあるようにも感じています。徐々にではありますが、ご自分の意志でパレットの生活を選択できるよう、安心、安全な暮らしを提供していければと思います。

2024 年度 にじいろの奏 事業報告

はじめに

2024 年度は、様々な行事や活動が再開しました。コロナ、インフルエンザ、胃腸炎とまだまだ油断はできませんが、負けない身体を心をつくり、1 歩 1 歩前へ進んでいけるように、今後もこの環境の中で引き続き取り組んで行きたいと思います。

1、利用者支援

利用者： 女性：4 名 28 歳～48 歳

過ごし方

それぞれ居室、リビングと好みに合わせた生活をされています。本来は、コロナの影響で蜜を避ける為でしたが、今ではライフスタイルとなり、それぞれの希望を尊重した過ごし方を優先しています。安全対策として手洗い、消毒、マスクなどは、継続して行っていくよう心掛けています。

健康管理

検温を含む体調の観察は勿論、メンバーの体重の増加もあり食事のメニューと摂取量にも気を付け取り組んでいます。また感染症対策として体温計の消毒、加湿器の使用、換気などの対応にも努めました。日々の健康管理については、例年同様月に一度の看護師の訪問の際に相談をさせていただき、各ご家庭にも報告をし、気になる部分についてはご家庭と個別に面談するなどして一緒に取り組んでいます。

防災

パレット、奏合同で避難訓練を実施しています。メンバー、スタッフが、屋外に出て近隣までの避難としました。最近も地震が頻繁に発生しています。実際に避難する時間、持ち物などを考えるとスムーズにはいかないことを考慮し、色々な場面を考えた訓練も行っていかなければと考えています。防災グッズの点検なども計画を立て、賞味期限などの確認、補充も行っていきたいと思っています。

将来に向けた取り組み

パートスタッフも増員し、ギリギリの人数ではありますが連携を取り、日々の支援に力を注いでいます。体制的には、奏・パレット・ほっと、グループホーム一丸となってホローし合いながら安定した支援を目指します。その為には、突然のアクシデント、スタッフの補充などにも即座に対応できるチームワークを目指して行きたいと考えています。

・旅行・イベント・余暇活動など

引き続き、旅行、イベントなどの参加、余暇での外出、などは一切行えませんでした。室内で過ごす環境の中で、誕生日、クリスマス、七夕などの行事は、密を避けケーキを食べたり、シチュエーションに応じた食事を提供したり、季節に応じた室内の装飾、昼食なども宅配で好きな物を注文するなどして、ささやかですが楽しんで頂きました。今後は、可能であれば野外活動が出来ればと考えております。

2、事業所運営

職員 24年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週1日) 支援員パート4名
調理員1名 清掃員1名
25年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週2日) 支援員パート3名
調理員0名 清掃員1名

会議

GH 会議は月に一回行い、奏(スタッフ)会議も月に1回行っています。情報の共有、問題点などの相談や報告を行い、なるべく話し合うスタイルを取って参りたいと思います。

夜間を含む人員体制

職員体制として女性のスタッフのみの配置は、昨年同様変わらず21:00迄は、遅番含め二人体制での支援となっています。夜勤スタッフに欠員が出た際は、応援若しくは、常勤スタッフが対応して参りました。グループホーム間で助け合えるよう努め、情報なども共有しています。

研修体制

今年度は、にじいろのパレット・奏として防火管理者を立てたく、新規講習に行っていました。

地域生活

BCP の体制も鑑み、地域連携会議の開催も含めて、町内活動にも積極的に参加していきます。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

まずはスタッフも健康に気を付けて万全の体制を整え、皆さんが安心して過ごせる環境を目指して行きたいと思います。事故や怪我などにも気をつけ、安全な暮らしが出来るよう、特に夜間帯に気を配るよう心掛けていきます。健康面でのサポート、消毒、マスク、手洗い等も引き続き行い感染防止にも努めて参ります。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

メンバーがまだ若いこともあり、皆さん元気に過ごされています。ずっと奏に居たい方、週末の帰宅を楽しみにされている方、将来的には 365 日の開所が待っていますが、まだまだご実家との生活の両立に気持ちが揺れていたり、皆さん様々な思いで生活されています。これからも将来に向けて、様々な問題があると思いますが、心穏やかに、居心地の良い居住空間を提供出来るよう目指して行きたいと考えています。